書窓

Shoso

№390　2017.10

太子町立図書館　編集発行
〒671-1561
兵庫県揖保郡太子町鵤
1310 番地 7
Tel (079)277-1580
Fax(079)277-5684

子どもの本だな 48

このページは子どもたちにすすめたい本をとりあげています。本を選ぶときの参考にしてください。

りすのナトキンのおはなし

ビアトリクス・ポター　さく・え
いしいももこ　やく（福音館書店）

りすのナトキンは、兄さんやいとこたちと湖のそばの森に住んでいました。秋になると、小さないかだに乗ったりすたちは、尻尾を帆の代わりに広げ、湖の真ん中の島に向いました。大きな柏の木に暮らすふくろうのブラウンじいさまに、ねずみやもぐら、ごみむしのプディングを捧げ、木の実を取る許しを請いました。けれども不作法なナトキンは、さくらんぼのようにとびはねながらじいさまになぞをかけ、ほかのりすたちが木の実を取っている間も、柏やもみの実でビーだまやボーリングをしたりと遊んでばかりです。ナトキンのふるまいはついにブラウンじいさまを怒らせてしまいました。

あかりすの子どもが「しりきれしっぽ」になった劇的な顛末が、どこかユーモラスに語られ、細部まで丹念に描きこんだ水彩画が湖水地方の秋の美しさを伝えます。４歳位から。

（片木）

みしのたくかにと

松岡 享子 作　大社 玲子　絵（こぐま社）

お城の窮屈な暮らしにうんざりした王子様が、ある日、「いなれしもかおがさあ、いなれしもかかいす、みしのたくかにと」以外は食べないと言い出しました。噂が広がると、その不思議なものを知っているという男の子が、ふとっちょおばさんの庭に大人を案内しました。

ふとっちょおばさんの庭には、同じ文句の立札がありました。かぼちゃを持ってお城へ出かけたおばさんは、王子様の青白い顔を見ると言いました。このかぼちゃは、軽い服装をし、戸外で大勢の子どもたちといっしょに食べなければいけないと。王子様は、小川のそばの草原で、おばさんの作ったお弁当を食べ、子どもたちにかえるやめだかのいるところを教えてもらいました。毎日、外で食べ、遊ぶうち、王子様は元気になっていきます。

王子様が食べたがった不思議なものの種明かしも楽しみです。おばさんの機転で王子様が元気を取り戻す様子に、気持ちが軽やかになります。読んでもらえば５歳から。

（竹内）

10・11 月の移動図書館（ いずれも木曜日です ）

10月	11月					
12日	9日	**塚森** 地域内 10:30～10:50	**沖代** 地域内 11:00～11:20	**福地(三反長)** 地域内 14:30～14:50	**米田** 公会堂 15:00～15:20	**竹広南** 公民館 15:30～15:50
19日	16日			**原池団地** 公民館 15:00～15:20	**山田** 掲示板前 15:30～15:50	**原** 太田東地区農村交流センター 16:00～16:30
26日	23日	**広坂** 公民館 10:30～10:50	**上太田** 公民館 11:00～11:20		**太子ニュータウン** 公民館 15:30～15:50	**吉福** 公民館 16:00～16:30

お知らせ

「野鳥観察の会」を開催

日本野鳥の会レンジャーの案内で身近な鳥を観察しましょう。

講師：片岡 海里さん
（日本野鳥の会レンジャー）

日時：11 月 23 日(木・祝)
9 時 30 分～11 時 30 分

場所：図書館→斑鳩寺→稗田神社

対象：小学生から大人まで（20 名）

申込：図書館窓口または電話で

『 すべての見えない光 』　アンソニー・ドーア 著

藤井 光　訳　　新潮社　520頁　2016年8月刊　2,700円　（請求記号）Fﾄﾞｱ

これは第二次世界大戦前後のドイツとフランスに暮らした少年と少女の人生がふとしたことから重なりあう物語。

戦前、ドイツの孤児院に炭鉱事故で両親を失った兄妹が暮らしていた。兄のヴェルナーは機械いじりが得意で壊れたラジオを直し、妹と聞いていた。国民を鼓舞する放送や言葉のわからない国の放送に混じって理解できるフランス語の放送が流れてくる。それは少年少女に自然科学の神秘を解き明かすものだった。

一方フランス、パリには先天性白内障の少女マリー・ロールが国立自然史博物館の錠前主任の父と二人で暮らしていた。父が博物館の鍵をすべて管理しているため、マリー・ロールは幼いころから博物館で一日を過ごしてきた。数限りない種類のものを手に取り肌触りや特徴を教えてもらう日々、マリー・ロールは貝に精通していく。6歳で完全に失明するが、父は詳細な町の模型を作り上げ彼女が一人でも出歩けるように訓練していた。

戦争が始まるとヴェルナーは国家政治教育学校で学び、ナチスに抗する地下組織摘発のため電波の発信先を突き止める軍務に就く。ロシアやポーランド、オーストリアで仕事をこなしていくが、妹の「私たちの国のしていることは間違っている」という言葉が心をよぎりはじめる。そんな時フランス南部でヴェルナーが見つけ出した電波は、かつて妹と聞いたあのフランス語の放送だった。それはマリー・ロールがナチスに追い詰められていく人々を勇気づけるため、決死の思いで流していた祖父の遺品のレコードだったのだ。ヴェルナーは危険の迫るマリー・ロールを救う。

物語は、二人の主人公を軸に時間の経過を行ったり来たりしながら辿っていく。博物館からゆだねられた秘密の宝を巡るナチス将校との攻防、マリー・ロールが心の支えにする点字の『海底二万海里』、そしてヴェルナーの心の変化。戦争が舞台だが二人を取り巻く人々すべてに人生があり懸命に生きている事をしみじみと感じさせられる。見えない光は主人公たちの心を深い所で支えているもの。それは文学がもたらすものと同じかもしれない。

（西村）

10月の開館日

日	月	火	水	木	金	土
1	2	~~3~~	4	5	6	7
8	9	~~10~~	~~11~~	12	13	14
15	16	~~17~~	18	19	20	21
22	23	~~24~~	25	26	27	28
29	30	~~31~~				

11月の開館日

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	~~4~~
5	6	~~7~~	8	9	10	11
12	13	~~14~~	15	16	17	18
19	20	~~21~~	22	23	~~24~~	25
26	27	~~28~~	29	30		

「子どもの工作展」

夏休みに作った工作を持ってきてください。

展示期間は10月1日(日)から11月3日(金)までです。

＊カレンダーの✕印は休館

＊ ▢ は館内整理日。
返却のみ受付（10～17時）

＊開館時間は、
10時から18時まで。
金曜日は20時まで開館。

地下水

毎月、龍田幼稚園に絵本を読みに行っている。7月に『ねずみのいえさがし』を読むと、続きも持ってきてとリクエストされたので、9月にはねずみのほんシリーズ3冊を全部読み、どれも楽しんでくれた。

幼稚園や保育所、館内の「絵本の時間」で読むからだけではないだろうが、最近半年間の絵本の貸出ベスト10を出してみたところ、『ちいさなねこ』『ぐりとぐら』『三びきのやぎのがらがらどん』など極めつけの絵本に混じって、『ねずみのいえさがし』が上位に入った。

子どもたちは、園や小学校で読んでもらって楽しんだ絵本を、図書館に借りにきてくれる。先日、龍田小2年のY君が探していたのは「くびがてつでできている本」と「ブルンブルンベスの本」。絵本に親しんでいる人ならすぐにわかるだろうが、『シナの五にんきょうだい』と『ベスとアンガス』だった。

他の職員が苦戦したという「木に目や口がついていて、いっぱい木がでてくる本」など、なかなかすぐにはたどりつけないこともあるが、「そう！これ！」とお目当ての本を抱きかかえる子のキラキラした目をみると、こちらも嬉しくなる。

子どもの覚えている場面やことば、登場人(動)物は思いがけないことも多く、こちらが想像をふくらませてあれかこれかと推理するのも楽しいことだ。

（池田）